



お釈迦さまのお誕生をお祝いしましょう。

平成22年 花まつり

主催 新潟佛教会

期日：平成22年4月8日(木)

法要：宝亀院 午後1時より

灌仏：大和デパート前 午前10時より

お釈迦さまに甘茶^{かんぷつ}をおかけし(灌仏と言います)、お祝いしましょう。

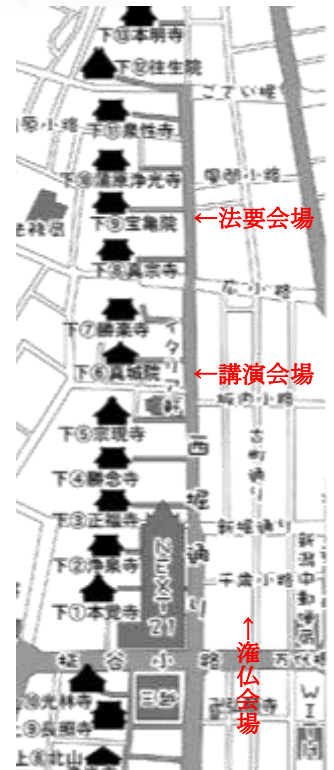
法要後、法要会場から灌仏会場まで稚児行列があります。

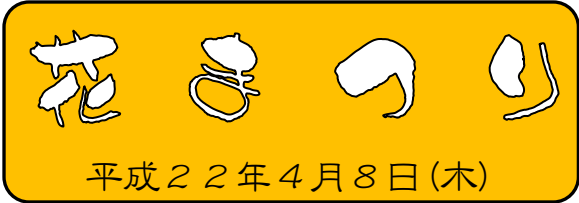
記念講演：講師 光山 正明師

会場 イタリア軒

時間 午後3時より

入場無料!





花まつり法要

時間:午後1時より

会場:宝亀院 新潟市中央区西堀通り9



稚児行列(おねり)

法要終了後、午後2時頃より、古町通を大和デパート前まで「おねり」



記念講演

時間:午後3時より

会場:イタリア軒

講師:光山 正明師(本浄寺住職)

演題:「平熱36度5分」

入場無料!

どなたでもご自由においでください。



古町会場での灌仏

時間:午前10時より

会場:古町通(大和デパート前)

4月8日は、お釈迦さまの誕生日、花まつりです。上記のように、法要・灌仏・おねり・記念講演など多くの行事を予定しております

お花あげまじよ
 ささげまじよ
 今日は子どもの花祭り
 にこにこ元氣な
 お釈迦さま
 みんなでお祝い
 いたしまじよ♪
 甘茶あげまじよ
 ささげまじよ
 今日は子どもの花祭り
 ちらちら
 れんげの花が降る
 みんなでお祝い
 いたしまじよ♪
 子どもたちの元氣な声
 が法要会場や古町通にこ
 だまします。是非とも、
 各会場に足をお運びくだ
 さいませう、お待ち
 たしております。

法然上人・大遠忌にむけて



副会長 青木 一男

法然上人は、念仏の一法一行による、万民平等往生の教えを説かれ、浄土宗をお開きになりました。

大衆仏教の創唱者ともいえる**法然上人の、八百年大遠忌を平成二十三年に迎えること**になっております。浄土門主、総本山知恩院門跡八十七世、坪井俊英猊下の「上人がお示しくくださったお念仏の教えを弘通することに努め、また全国の皆様方とご縁を結び、大遠忌には全国のありとあらゆる方々に参拝して頂きたい」との願いのもと大遠忌記念事業を推進・展開しています。

総本山知恩院(京都)、大本山増上寺(東京)、大本山金戒光明寺(京都)、大本山知恩寺(京都)、大本山清浄華院(京都)、大本山善導寺(福岡)、大本山光明寺(鎌倉)、大本山善光寺大本願(長野)で大遠忌法要が行われます。(善光寺は平成二十年五月に終了) 国宝「法然上人行状絵図」全四十八巻をデジタル撮影し、データ化することにより、現状の絵伝を永久的に末代へと継承する事業を進めています。

また、総本山および各大本山でも、そ

れぞれ独自の記念事業を推進・展開しています。

総本山知恩院では、国宝御影堂の半解体修理、重要文化財集会堂の半解体修理、法然上人御廟の整備等を順次行っています。

親鸞聖人七五〇回大遠忌



副会長 細川 好円

親鸞聖人は一二六二年に亡くなつていままから、逆算すると一一七三年生まれとなります。当時としては大変な高齢で九十歳まで生きました。若くして父母を失った聖人は、九才で比叡山に出生し二十九才までいました。

当時の比叡山は、僧兵を率い権力を振るっていました。当時の権力者白河天皇ですら「賀茂川の水、双六の賽、山法師(僧兵)は、私の意のままにならない」と嘆いているような世情でしたが、聖人は意に介せず、経典を読み厳しい修行を続けました。が、修行の結果が見えてこぬ聖人は、十九才の時、尊敬している聖徳太子の御廟を訪ねました。二日目の夜、「あなたの命はあと十年。真の菩薩となれ！」の夢告を受け、驚いた聖人は余命十年の想いと真の菩薩を求めて、さらなる厳しい修行を積みましました。

この修行時代に一つのエピソードが残っています。聖人が二十六才の時、托鉢からの帰路

赤山明神で一人の女性と出会います。その女性は「比叡山に連れて行ってほしい」と願うのですが、聖人は「この山は女人禁制ですから同伴できません」と断ります。再度断る聖人に女性は詰め寄ります。「仏は、すべてのものは平等に救われると説いておられます。何ゆえに女性だけが差別されるのですか？この比叡山は女人禁制といいますが、この山にはメスの生き物はいないのでですか？猿や猪のメスはいないのでか？なぜ人間の女性だけが差別されるのですか？」聖人は、何も答えることが出来ず、逃げようように比叡山に帰っていききました。この話は、聖人の行実としての歴史的資料としては疑わしいとされていますが、この女性の問いを真摯に受け止めただろう聖人の姿が想像されます。

十九歳のときに余命十年と宣告された聖人は、二十九才の時、煩惱を断ち切るこの出来ない自身を知って比叡山を下り、真の菩薩を求めて浄土宗開祖法然上人の念仏の教えに帰依しました。法然上人の教えに、煩惱を持ったまま仏の徳を喜べる自身を発見し、今も現代に生きるわれわれ大衆に、佛徳讃嘆・報恩謝徳の生き方を説いています。聖人の教えを生活のよりどころとして生きている信徒たちは、**二〇一一年に迎える聖人七五〇回忌大法要**を賑々しく厳修しようとして、今、嬉々として準備を進めています。真宗十派は、それぞれに法要を厳修します。真宗寺院に問い合わせください。

第7回 市民のための仏教講座

特別講師

ひろ さちや氏



演題

「縁の世界」に生きる

日時

平成二十二年十月九日(土)

午後3時より

会場

県民会館大ホール

詳細は後日、各寺院を通して御案内いたします。

へひろ さちや氏プロフィール

■ 職歴・経歴

- 一九三六年 大阪市に生まれる
- 一九六〇年 東京大学文学部インド哲学科を卒業
- 一九六五年 同大学院博士課程を修了
- 気象大学校教授を経て宗教評論家として活躍
- 現在、大正大学教員教授

■ 著書

- 『仏教はじめの一步』春秋社
- 『釈迦とイエス』新潮社
- 『ひろさちやの般若心経∞講』新潮社
- 『仏教に学ぶ若い方・死に方』新潮社
- 『ポケット般若心経』講談社
- 『「狂い」のすすめ』集英社
- 『ブッダは何を教えたのか』日本文芸社
- 『あるがままに生きよ』ぶんか社
- 『いま、釈迦に学ぶ生き方―百万人のブッダ、出てこないか』徳間書店
- 『あなたの生き方―仏教的人生論』廣済堂出版
- 『3日でわかる仏教(知性のBasicシリーズ)』ダイヤモンド社
- 『仏教に学ぶ八十八の知恵』PHP研究所
- 『あるがままに―禅のこころ』世界文化社
- 『いいかげん』のすすめ』PHP研究所

《編集後記》

四月八日はお釈迦様の誕生日を祝う「花まつり」であります。

仏典の一節に、龍王がお釈迦様の降誕を讃え、甘露の雨を身体に降らせ沐浴したこと、今では甘茶を注ぎ、灌仏することになりました。

甘茶を注ぐことによって私たち自身も尊い存在であることを自覚して、心のゴミである三匹の鬼(欲張り・怒り・愚かさ)を洗い清め、施し、優しく、正しく「こころの真理の花」を咲かせて生活することが大切です。

毎年お稚児さんが百人以上、付き添いの方が同数と盛大に、四十年以上灌仏会場を提供していただいた古町商店街並びに大和デパートさんに心から感謝する次第であります。

お世話いただいた大和デパートさんが古町から撤退することは大変寂しいことであり、まるで花御堂を失ったようにも感じます。

今後は、仏教会が一丸となって地域の活性化に取り組み、真理の花に包まれた自分達を見出す場所を探し「花御堂」の主人公となり、人類の支柱になれとお釈迦様は天と地を指しておられるのだと信じております。

《桑》